

# 風の流氷

【短歌】

岡崎 桜雲 選

猛暑日に玉なす汗して庭師刈る鉄の音に老いは感じず  
 原発の廃棄物処理出来ぬ俣次の世代へ送るといふか  
 働きて働き抜きて君逝けり君が愛せし柚の里山  
 再びに読まん思いに切り抜きぬ倉橋さんの装画エッセイ  
 貴男にはふさわしい私でありましたかそれを問えまませぬ  
 春が来た歩き始めた曾孫が土付きおむつ横にふり歩く  
 今頃は何処の空ぞつばめらの旅を想ひて秋は更けゆく  
 朝夕に紅葉彩濃く映ゆる山独り眺むる今日の幸  
 同じ問繰り返し言うを聞き流し同じ答えを我もくりかえす  
 孫娘は産婦人科医で日々多忙自身の縁早くと願う  
 栗拾う猪より先に目覚めたり今日のひと日は有頂天なり  
 しんしんと心に積もる細雪ただひとすじに歩みてゆけり  
 台風を如何に耐えしかこの蝶はわが手の平に羽根を広げる  
 展示さるるわが絵を見むと子と共に秋の更けゆく館に入りぬ  
 陽を避けて鉢に立つ菊凛として蠟蜜のさまに重ぬる花弁  
 期限までせつかく詠んだ歌なのにどこかずれてる今朝のころよ  
 若水を汲みて気分も新たなり皆集まりて空気が和やか  
 コーラスの歌声響く秋の空ねんりんピックに花咲くわれら  
 大盛況で一日終りぬ会員の我を氣遣うことばの嬉し  
 哀しみと不屈の想ひ響きくるちまたに流るる「花は咲く」歌  
 横寝して吾の動きをちらちらと薄眼をあけて猫は見ている  
 残さず食べよと諭す若き親心ほのぼのと吾は席立つ

盛岡 雛子  
 小松 隆之  
 森本 幸美  
 門田 喜美  
 武田 晶世  
 山本 太幸  
 都築 忠義  
 森 楓  
 岡田美代子  
 高野 和一  
 法光院俊子  
 山崎 貴子  
 小松 敏子  
 坂上のぶ子  
 大岸由起子  
 菲生 灯  
 公文 千恵  
 谷内 務  
 吉本 悦子  
 武内 弘子  
 松中 賀代  
 竹村 咲子

フラダンス初めて受ける花束にスターのような気分になれり  
 猛暑すぎ押しあひ咲きしコスモスは白きもまじりさゆらぎてをり  
 瓶に挿す真紅のバラよ少しづつ光を追ひて吾と向き合ふ  
 同窓会六十余年の昔に戻り和気あいあいと話の弾む  
 幸せを計る物差しなぞいらぬ知覧の平和祈念館に佇つ  
 今ごろは黄泉の坂道登りるむ母「疲れし」と戻り来るやも  
 穿かされしジーンズ益々色のあせ檻樓となりて傾く案山子  
 寒蘭の細葉たをやかに風かよふ窓に一人の心保てば  
 よその児のパパとまさつて追い掛けつこ声上げ逃げる孫の足早し  
 起伏する薄の丘と思ひ見る仙石原の名に惹かれ来て  
 故郷の友より届きし布草履色あざやかに吾が足に添ふ  
 空梅雨で夏日の続くこの日ごろダム湖の水も少なくなりぬ  
 蚕かひ糸を紡ぎて機を織る夜なべの祖母の子守歌思ふ  
 手術前皆のむと云う睡眠薬我はことわり宵より眠る  
 早々と香長平野は実りの季農機具を売る息寝るのみに帰る  
 沖繩の平和公園碑に父の名なぞりわれの居りたり  
 社会への扉開かぬと口結ぶ作りしジャムはなかなか売れず  
 押し車に休憩をとる小春の日紙切れひとつ足元に来て  
 東京に外向をせし孫の部屋包みて静か木犀の香は  
 赤も白も声をかぎりに応援す勝敗分かつ最後のリレー  
 誕生日母に黄色のカーデイガンをプレゼントして私も嬉し  
 世の隅に生きてひたすら励み来し匠は淡々と表彰を受く  
 俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載を希望される方は、掲  
 載月の前月1日までに、ご応募ください。  
 なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。  
 【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係  
 〒782-8501（住所記載不要）FAX 53-5958

門田 明子  
 小松 禮子  
 高橋 章  
 林田 幸子  
 大石 綾子  
 古川 安子  
 公文 正子  
 小松もとみ  
 伊藤 清子  
 佐竹 玲子  
 都築 初代  
 近藤 由美  
 大石紗智子  
 古谷 由美  
 佐々木真里  
 宮地 亀好  
 山崎 淑子  
 林 敏子  
 町 耿子  
 明石 敬恵  
 吉川 恵  
 岡崎 桜雲

## 図書館だより

市立図書館



### 読み聞かせボランティア

香美市には、幼稚園・保育園・小学校・中学校で、約140人の読み聞かせボランティアが活躍しています。

秋の読書週間には、読書ボランティア養成講座を香北分館で2講座、本館では3講座開催しました。

講座では、ボランティア活動をやりがいのあるものにするための基本研修や、ワークショップで意見交換を行いました。

参加者からは「定例会を開き、本の紹介や交流会をしている」「幅広い知識を得て活動できるのでグループ同士つながりがあったほうが良い」「香美市は、幼・保から大学までがある市だからそれを活かすことができれば良いと思う」などの意見が出ました。

また、読み聞かせグループからの活動報告により、他のグループから学び、課題を共有し、今後へつなげる会となりました。今後は、

市内のネットワークを作る

ことが重要と思われま

☆読み聞かせグループからの活動報告

▽第二土佐山田幼稚園  
 2005年より開始。現在は、4人が活動中。クラスごとに書名・様子・担当者

▽片地小学校・片地保育園  
 本を読む楽しさを知ってもらいたい、地域住民との交流を深めたいと絵本、おはなし、NIEなど朝の読書の時間に活動している。人数は13人で、学習会では、入門講座・技術チェック・発声の基礎研修などを行っている。

▽鏡野中学校  
 幼い頃の純粋な気持ちを思い出してもらいたいと絵本を中心に取り組んでいる。人数は、約20人で大学生をはじめ男女さまざまである。本の選定、読み聞かせの仕方等の課題がある。

## Pick Up



### 燃える闘魂

稲盛和夫 著

日航再建の次は、日本再生！現在の日本社会に一番足りない物は不屈不撓（ふくつふとう）の心であると説く八十歳を超えた氏の哲学、ここにあり。



### ペコロスの母に会いに行く

岡野雄一 著

認知症になった母とのエピソードをもとに描いたエッセー漫画。「ポケるとも悪か事ばかりじゃなかかもしれん」長崎弁の母の言葉が染みる。



### ほとんど人力

菅原文太・他 著

菅原文太と17人の達人との対談。今の日本に必要なのは型破りの人間だ。原発問題など、今、私たちが正視しなければならぬ事柄がここにある。

## 吉井勇記念館だより

季節の展示

〜冬〜

吉井勇の新春歌はじめ



吉井勇記念館では、季節の展示〜冬〜吉井勇の新春歌はじめを開催しています。新年を詠んだ吉井勇の短歌を中心に、選者として歌会始めの儀に参列した際の作品なども紹介しています。  
 【期間】2月24日(月)まで

吉井勇作品紹介

〜冬〜

年ひとつ加ふることものしみにと  
 してしづかなる老に入らまし

〔解説〕

（注）勇の作品は清音・濁音を書き分けていません。  
 ある。

勇は、昭和11年の秋から翌12年の春までの約半年の間、静岡県に仮初の宿迷庵を構えて滞在した。この歌は歌集『天彦』の駿府新春の中に所収されており、苦悩の隠棲時代・歌行脚を経て新しい年を迎えた勇の心境が垣間見える作品で大きな転機となった。

■問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220